第一講座 漢字・語句・文法の知識

P 5 ① 27年度

△解答▽

- 1 ①密生 ②しの(ばせ) ③拾(い) ④うもう ⑤意外(に)
- 2 (1)そでだけ (2)イ
- 3 オ

△解説▽

- 1 ③は「捨てる」という対義語、⑤は「以外(に)」「という同音異義語との書き間違いに注意する。
- 2 (2)札(しめすへん)、複(ころもへん)、税(のぎへん)、枝(きへん)、祝(しめすへん)がそれぞれの部首である。
- 3 活用形は、傍線部の下に接続することばによって判断する。

ア 苦しんで
イ 見つけました
ウ 伝わり(ます)
エ 思い屈した
オ やろう

「ます・た・て」に接続↓連用形
「ない・う・よう」に接続↓未然形

P 6 ② 28年度

△解答▽

- 1 ①たお(して) ②訳 ③けんご ④往来 ⑤垂(れて)
- 2 きかがく
- 3 (活用の種類) サ(行) 変格(活用)・(活用形) 未然(形)
- 4 四(画目)

△解説▽

- 1 ④「往来」とは、道路や通りのことを表す。
- 2 『活用の種類』について
- 3 「し」…言いきりの形「する」↓サ行変格活用は「する」のみ。

☆「移動する」などの「ゝする」も含む
『活用形』について

☆活用形は傍線部の下に接続することばによって判断する。

「し」↓「ない」は未然形につづく語である。

- 4 「戒」「感」横棒よりも先に書く。

P 7 ③ 29年度

△解説▽

- 1 ①お(い) ②熱心(に) ③おお(われて) ④縮(んだり)
- 2 いっせき
- 3 (対)策
- 4 ウ
- 5 立った

△解説▽

- 2 「一朝一夕」とはみじかい時間のこと。
- 4 単語に分けると次のようになる。
さらさらと／流れ／て／い／た
副詞 動詞 助詞 助動詞(過去を表す)
- 5 「不意に」は品詞で言えば副詞。用言を修飾することばで、ここでは動詞「立った」にかかる。「一文節で抜き出さない。」に注意する。

P 8 ④ 30年度

△解答▽

1 ①げんしゆく ②机 ③へだ(てて) ④勇(んで)

2 就(任)

3 エ

4 「活用の種類」 下一段(活用)・「活用形」 連体(形)

5 4

△解説▽

2 「就任」とは役職につくこと。

3 ア、イ、ウ、オの選択肢は上の漢字が下の漢字を修飾している。

エの選択肢は似た意味の漢字の組み合わせである。

4 ◎活用の種類の識別方法

①サ行変格活用(する、○○する)、カ行変格活用(来る) かを考える。

②「ない」をつける。(今回の問題だと「なしとげない」)

③「ない」の一字前が何段かを確認する。

ア段なら五段活用、イ段なら上一段活用、エ段なら下一段活用。

◎活用形は続く語で判断する。

なしとげること 名詞(体言) ∴体言が続いているので連体形となる。

動詞 助動詞 名詞 助詞 名詞 助詞 名詞 助詞 動詞

5 恐れ／ない／者／の／前／に／道／は／開ける

「打消を表す」

P 9 ⑤ 31年度

△解答▽

1 ①するどい(い) ②ごご(った) ③群(れ) ④往復

2 (深山) ゆうこう

3 「I」β 「II」12

4 「活用の種類」 サ行変格(活用)・「活用形」 連体(形)

5 イ

△解説▽

2 「深山幽谷」とは、ほとんど人が入ったことのないような奥深い自然の地のこと。

3 こごとへんの画数は三画である。「例」を見ると、総画数が算用数字なので、それに合わせて答を書く。

4 「する」「○○する」はサ行変格活用である。また、「する」は「宣教師たち」という体言につながるので連体形となる。

5 イの「人影はない」はものの存在の否定を表す「形容詞」である。形容詞は自立語であるため直前に文節で区切れるが、助動詞は付属語であるため直前で文節で区切れない。

P 10 ⑥ R 2年度

△解説▽

1 ①なか(ば) ②こいつ ③向(き) ④夢中

2 利

3 ウ

4 5

5 ア

6 オ

△解説▽

3 「深謀遠慮」しんぼうえんりょとは、深く思いを巡らし、遠い先々まで考えること。「深謀」は、奥深い見通しを持った考え、「遠慮」は、ここでは、遠い先のことについて考えを巡らすという意になる。

4 文節に分けると次のようになる。

小説を／読む／友など／一人も／いなかった

5 「最後」は、上の漢字が下の漢字を修飾している熟語。これと同じ構成の熟語はア「親友」である。イ「土地」は似た意味の漢字の組み合わせ、ウ「縦横」は意味が対になる漢字の組み合わせ、エ「閉幕」は上の漢字が動作を、下の漢字が「くを・くに」に当たる意味を表す熟語、オ「日没」は上の漢字が主語、下の漢字が述語の関係となる熟語である。

6 波線オは「くれた」と「た」が後に続いているので連用形である。

△解答▽

1 ①おね ②寒(そう) ③(山)並(み) ④中腹

2 いちむう

3 ウ

4 「活用の種類」カ行変格(活用)・「活用形」連用(形)

5 「I」ウ 「II」ひらく

6 4

△解説▽

3 「映」の総画数は九画である。ア〜オの漢字をそれぞれ行書体から楷書体に直すと

ア「救(十一画)」

イ「隊(十二画)」

ウ「級(九画)」

エ「徑(八画)」

オ「郷(十一画)」

となる。

4 「来る」はカ行変格活用の動詞である。また、二重傍線Bの直後に「た」があることから連用形だと分かる。

5 活用するときに形の変わらない部分を語幹という。それに対し、活用するときに変化する部分を活用語尾という。問題にあるように「ほころびる」は上一段活用なので、活用表にまとめると次のようになる。

語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
ほころ	び	び	びる	びる	びれ	びびよ

右の表より、ウ「ほころ・びる」が正解だと分かる。

また、②「花のつぼみが…」II。「口をII」から、

IIには「ひらく」が入ることが分かる。

6 「体言」とは名詞のことである。二重傍線部Dの中にある名詞は、上から順に「父」「山」「時」「時間」の四つである。

△解答▽

1 ①おだ(やか) ②まんきつ ③簡潔 ④絶(え間)

2 一転

3 「活用の種類」下一段(活用)・「活用形」終止(形)

4 「I」イ 「II」ア 「III」キ

5 2

△解説▽

3 「続ける」に「ない」をつけると「続けない」というふうに語尾がエ段になる。よって、この動詞は下一段活用動詞である。また、直後の「と」は引用の格助詞で、終止形に接続する言葉である。

4 問題にもあるように、行書は点画を連続して書くので、楷書に比べ速く文字を書くことができる。また、行書では、点画を省略したり、筆順がかわったりすることもある。

5 活用のある自立語は、動詞、形容詞、形容動詞の三つである。二重傍線Dには「登り(登る)の連用形」「考え(考える)の連用形」という二つの動詞が含まれている。

△解答▽

1 ①導(く) ②専門 ③じり(み) ④ぎょうじゅく

2 エ

3 7

4 「活用の種類」サ行変格(活用)・「活用形」連用(形)

5 オ

△解説▽

2 二重傍線部A「社」の部首は「ネ(しめすへん)」である。「株」の部首は「木(きへん)」、「補」の部首は「ネ(ころもへん)」、「稼」の部首は「禾(のぎへん)」、「粗」の部首は「米(こめへん)」である。

3 二重傍線部Bを文節に分けると「率直に／伝える／著者の／言葉は、／私の／胸に／響きました」となる。

4 二重傍線部C「し」を言い切りの形になおすと「する」となるので、サ行変格活用の動詞だとわかる。また、二重傍線Cの直後に「て」という接続助詞がついていることから、「し」は連用形だとわかる。

5 二重傍線部D「柔軟」は、「柔らかい」「軟らかい」という似た意味を持つ漢字を組み合わせた二字熟語である。「年少」は「年が少ない(幼い)」という意味で、上の字が主語、下の字が述語となっている二字熟語。「深海」は「深い海」という意味で、上の字が下の字を修飾している二字熟語である。また、「虚実」は「虚ろ(ないこと・うそ)」「実(あること・本当)」という反対の意味を持つ漢字を組み合わせた二字熟語。「作文」は「文を作る」という意味で、下の字が上の字の目的や対象を表す二字熟語である。

△解答▽

1 (1) ①柱 ②じりぬ(じり) ③印象 ④きょうじゅく

(2) ウ

2 エ

3 オ

4 入り込みます

5 イ

△解説▽

1 (2) 傍線⑤の前の文に伝染病についての記述があること、傍線⑤の直前に「公共」とあることから、ウ「衛生」が最も適当であることがわかる。なお、ア「永世」は限りなく続く時間、永久のこと、イ「永生」は長生きをすること、永遠の命のこと、エ「衛星」は惑星を周回する天体のことである。

2 「師事(する)」とは、ある人物を先生とし、その人につかえ、教えをうけることである。よって、「事」の意味として最も適当なものはエである。

3 「純」の総画数は十画である。ア「強」は十一画、イ「津」は九画、ウ「教」は十一画、エ「週」は十一画、オ「起」は十画である。

4 「共に」は「あることを一緒にする」という意味で、連用修飾語になる。今回の文では、「入り込みます」という文節を修飾している。

5 それぞれの単語を言い切りの形に直したものに「ない」をつけて、活用の種類を判断する。「ない」をつけて、その直前がア段音になるのは五段活用、イ段音になるのは上一段活用、エ段音になるのは下一段活用である。また、カ行変格活用の動詞は「来る」の一語しかなく、サ行変格活用の動詞は「する」「くする」しかない。なお、波線アウオの動詞はそれぞれ次のようになる。

- ・波線ア「振り返る」+「ない」=「振り返らない」↓五段活用
- ・波線イ「生まれる」+「ない」=「生まれない」↓下一段活用
- ・波線ウ「守る」+「ない」=「守らない」↓五段活用
- ・波線エ「知る」+「ない」=「知らない」↓五段活用
- ・波線オ「尽くす」+「ない」=「尽くさない」↓五段活用